



WEEKLY REPORT

高山中央ロータリークラブ

2023～2024 年度 高山中央 RC 会長テーマ
親睦～例会に出席しよう～



世界に希望を生み出そう

◆会長 岩本 正樹 ◆幹事 長瀬 栄二郎 ◆会報委員長 井ノ下 雄志 ◆会報担当 今井 哲也

創立 1991 年 5 月 20 日

<出席報告>

◇事務局 高山市本町1-2

飛騨信用組合本町サテライト出張所 3階

TEL:0577-36-0730/FAX:0577-36-1488

◇例会場 ひだホテルプラザ 3F/TEL:0577-33-4600

◇例会日 毎週月曜日 PM12:30～

◇ホームページ <http://www.takayamacrc.jp/>

	会員数	出席会員	出席数	Make-up	出席率
本日 1357 回	54 名	54 名	45 名	——	83.33%
前々回 1355 回	54 名	54 名	42 名	4 名	85.19%

- 点 鐘 会長 岩本 正樹
- ロータリーソング 我らの生業
- 四つのテスト
- ビジターおよびゲストの紹介
- 会長の時間 会長 岩本 正樹

皆さんこんにちは、3週間ぶりの例会でご無沙汰しておりましたが、皆様如何お過ごしでしたでしょうか。連休中は比較的天候にも恵まれ、過ごしやすい気候の中、ゴールドenウィークをエンジョイなされたことと思います。私は4人目の孫に最近流行りのお食い初めなる儀式をなじみのお店で執り行い家族団欒過ごすことが出来ました。なにか、能登半島の方々には不謹慎かもしれませんが、コロナのような恐ろしい感染症に悩まされることも無く、世の中平和で、普通の日常を過ごせることが凄く幸せな今日この頃だと感じております。

さて、5月に入りまして私の会長任期も2ヶ月弱となりました。ここまで来ますと、はや10ヶ月も経ったのかと正直時間の経過の早さに少し戸惑いを感じておりますが、今日も含めてあと6回の例会でございます。そのうち2回は夜の親睦例会でありまして、来週の新緑例会と最終の慰労例会でございます。特にこの2回は私と小出委員長の本領を発揮して頑張りますので、皆さん沢山のご出席を宜しくお願い致します。それと、本日の例会担当は創立35周年記念事業計画委員会でございます。再来年の都竹年度がいよいよ35周年でございますが、私はその委員長を周信夫さんをお願い致しました。そして来年の堀口年度も計画委員会を準備委員会と名を変えまして引続き周さんが委員長に指名されております。そういう事がございますので、周さんには35周年記念事業、大変期



待しております。どのような記念事業になさるか、周さんならではの記念事業の計画を宜しくお願い致します。

話を代えさせて頂きまして、本年度は職業奉仕の例会を多く取らせて頂いておりますが本日もロータリーの重要な目的のひとつであり、また我が高山中央ロータリークラブの長期戦略計画の目的にもなっております「職業奉仕に徹する」という、言ってみればロータリーの神髄と言いますか肝であります「職業奉仕」について、これは若い会員さんにもロータリーに入会されたら絶対に理解しておいて頂きたいロータリー精神でありますので、私なりに理解している事を少し述べさせて頂くことに致します。先日都竹副会長も卓話で述べられておりましたが、職業奉仕の「職業」は自分の為にお金を儲けること、そして「奉仕」とは自分以外の人の為に尽くすことで、全く逆の意味の言葉が一緒になって「職業奉仕」という言葉になっている為に解りにくく、これは完全なるロータリー用語であり辞書にも載っていないようで、もう少し解りやすい表現は無いのかと思ったりもしますが、ではどういう意味なのかと言いますと、「職業奉仕とは、自分が世の中のためになる職業に誠意をもって行い、周囲の人たちをより幸せにするために、倫理観をもって仕事をする事である」とあります。これもなかなか難しい表現ですので、職業奉仕を解りやすく理解する為に、先ず職業奉仕がどのようにして誕生したかを説明したいと思います。ロータリーの誕生当初、無法で人を騙して商売をするのが当たり前の時代に、例会に出席することにより親睦を深め、信用と信頼ができる仲間を作り、それを仕事にも利用し自分の事業も発展させようという、会員相互の互惠取引、相互扶助と親睦を目的としてロータリーは活動していたそうです。ですので、当初のロータリーは仕事の取引上の安心感から爆発的にクラブ数や会員数を増やしていっ

たそうです。しかし次第に内外から批判を受けるようになります。新聞紙上においては、「ロータリアンだけが儲かってよいのか、これは経済の秩序を乱すものである」とか、内側からは社会奉仕の父といわれるドナルド・カーターが「もしロータリーを永続的に発展させていくなれば、自分たちの利益だけを追求するのではなく、世間の人達の共感を得なければならない」と説かれ、ここにおいて、ロータリーは相互扶助を目的とした時代から、社会奉仕や国際奉仕を中心とした時代に大きく方向転換することとなりました。しかしそれでは相互扶助を期待して入会した人にメリットが無くなり会員数が減少してしまうので、ポスト相互扶助としてシェルドンが唱えたのが「職業奉仕」という思想になります。シェルドンは1911年に職業奉仕の原理原則である「最も多く奉仕する者、最も多く報われる」を発表し、職業奉仕思想が誕生しました。これは当時無法がまかり通る時代で店ができては潰れていく世の中で、潰れる事無く継続的に利益をあげている事業所がある事に注目して、これらの事業所に共通する営業状態を総称して Serves と定義して、「小さなサービスをすれば小さな利益しか得られないが、大きなサービスをすれば大きな利益を得られる」と説き、サービスとは無料で商品や技術を人に与えるのではなくて、社会のニーズに適した商品や技術を適正なる価格で提供することによって、売り手と買い手が互いに信用と信頼で結ばれ、それによって継続的な利益が得られると言っております。但し、それには非常に高い倫理基準を持つことが必要だとも説かれていて、これがロータリーにおけるサービスであると言っております。ここで解りやすい職業奉仕の実践例を紹介致しまして終わりにしたいと思います。日本で最初に電気洗濯機を作ったのがサンヨー電気です。何故、サンヨー電気は洗濯機を作ったのかです。それまで、家庭の主婦は毎日毎日、川やたらいで洗濯しておりました。量にもよりますが、1時間以上をかけて、寒い日は非常につらい重労働です。それを見た社員が、このような主婦の重労働を何とか助けてあげたい、輸入品は高価で一般の人にはとても手がでないけど、できるだけ安く一般の人にも買える洗濯機を作ってあげれば、主婦の労働が軽減され楽になるのではないかという考えのもとで、試行錯誤の末、電気洗濯機を開発いたしました。しかし、安いといってもまだ一般庶民にとっては高値の花であり、贅沢であるという考えが日本ではまだあって最初はなかなか売れませんでした。主婦にとって洗濯機はどうしてもほしいものであり、徐々に普及し始めると、あっという間に全国に普及いたしました。このようにロータリーの職業奉仕の基本的な考えは、儲けのために職業を営んでいるのではなく、品物や技術を通

じて社会により素晴らしいものを提供するために職業を営んでいるという心を持つこと、その見返りとして利益を得ているという心を持たなければならぬという考え方です。世のため、人のために職業を通じて尽くしたその結果、相応の報酬を得るということです。皆さんは我が高山中央ロータリークラブの長期戦略計画の目的であります「職業奉仕に徹する」を実践なさっておりますでしょうか。今日は職業奉仕についてお話をさせて頂きました。ありがとうございました。

● 幹事報告

幹事 長瀬 栄二郎

◎R I 本部より

・ザ・ロータリアン誌

◎濃飛グループガバナー補佐より

・最終訪問について
5月27日(月)



<飛騨慈光会後援会より>

・總會のご案内
日時：5月18日(土) 15:00～
会場：飛騨慈光会山ゆり福祉会館

<高山市青少年育成市民会議より>

・總會のご案内
日時：5月30日(木) 19:00～
会場：高山市役所 地下会議室

<飛騨高山国際協会より>

・總會の議決結果について

<高山市都市提携委員会より>

・定例会の結果について

<会報>

・下呂RC

*台湾地震支援金

皆様からの募金額 40,155円 クラブより 9,845円足して 50,000円振り込みました。

●創立 35 周年記念事業計画委員会 委員長 周 信夫

本日は創立 35 周年記念事業委員会です。よろしくお願ひいたします。

周年記念の意味合いとして節目、節目で、クラブの絆を深める記憶に残る行事をする事が大切だと思います。

記念事業には会員相互の親睦、思い出を作る対内的な親睦旅行や記念事業式典、その後の平塚湘南 RC も参加していただく懇親会があります。一方クラブの活動内容や存在意義を社会に PR する対外的な記念品贈呈や地域の皆様とのイベントがあります。

会員の皆様が後世まで記憶に残るみんなで決める記念事業を行いたいと思います。

私は 2009 年に入会して翌年には 20 周年、25 周年、30 周年と経験しました。

当時を知らない新しい会員も多く実行委員長を 20 周年に担当された島さんと 30 周年を担当された中田専太郎さんに当時のお話をさせていただきます。

25 周年については担当された橋本さんが退会されましたので当時の記念誌がありますので回覧いたしますのでご覧ください。

記念誌には当時の会員が載っていますが 17 名の方が退会されています。

会員の中にはご不幸のため退会となられた方も含まれていますが本当にクラブが楽しく有意義であればこんなに沢山の退会者はいないと思います。

ロータリーが自分にとって楽しければ退会しないと思いますので 35 周年は楽しい記念事業ができればと思います。最後に記念事業に対する優先順位をアンケートにご記入お願いいたします。

12 月に 2 回目の委員会がありますので概要につき発表できればと思います。



創立 20 周年記念事業について

島 良明

創立 20 周年は、平成 23 年 5 月 20 日でした。

記念事業としては、平成 22 年 10 月 12 日に、飛騨高山高校環境科の生徒と共に、飛騨高山高校の管理地で記念植樹をしました。

そして、平成 22 年 10 月 17 日に、平塚湘南 RC との、青少年交流で「平塚市中学生駅伝大会」に、中山中学校の男女駅伝チームが参加しました。

この時は、会長の清水幸平さんが、先頭に立って、中学生を平塚まで引率して行きました。成績は記



憶にありません。

さらに、会長の清水幸平さんが、平成 23 年 2 月 21 日に、ビルメロの会を通して、本や CD をミャンマーの子供たちに贈りました。

メインの行事としましては、平成 23 年 5 月 14 日（土）に、創立 20 周年記念例会及び祝賀会を、ひだホテルプラザで、平塚湘南 RC の人達も参加して行いました。

記念講演としては、高山市出身の中村久子さんの映画を上映し、その子供である中村富子さんに講演してもらいました。

中村久子さんは、高山市出身の方で、幼いころ脱疽と言う病気で、両手両足を無くして『だるま娘』としてサーカス小屋等に出ていました。

私も、子供の頃、今の「でこなる横丁」にあった、見世物小屋の入口に、両手両足の無い『だるま娘』として座っていた中村久子さんを見た事があります。

中村久子さんは、両手両足が無くても、中村久子一座を創って、全国を廻り、満州まで兵隊の慰問に出掛けた事もありました。

極め付けは、ヘレン・ケラーさんが、3 度、来日しているのですが、全て中村久子さんに会う為で、ヘレン・ケラーさんは、中村久子さんの事を、『私より不幸なひと、私より偉大な人』とっていました。

中村富子さんも、何年か前に亡くなりました。

思い出作りとしまして、創立 20 周年記念の旅を企画し、平成 23 年 5 月 27 日～29 日に、北海道旅行に行きました。

いろいろな人がみえますから、5 月 28 日、午後 6 時 30 分、函館の「海ぼうず」で懇親会をやるという案内だけを出しました。

私は、2 泊 3 日で、旭山動物園へ寄ったりして、函館へ入りました。

周さん夫婦は、富山から羽田へ行き、羽田から函館に入りました。帰りはその逆で、羽田から富山へ向かった便が着陸出来ず、羽田へ引き返し、翌日、富山へ向かったのですが、再び着陸出来ず、新幹線で帰って来て、誰かが富山空港まで、車を取りに行ったとの事です。

極め付けは、今は退会した、谷口欣也君と、長瀬栄二郎君が、私たちと同じ飛行機で札幌へ行った後、日本 100 名山の「羊蹄山」に登るとの事でした。

後から聞いた話ですが、5 月末の「羊蹄山」は、まだ冬山で、軽装で出掛けた二人は、遭難仕掛けました。

そして、5 月 28 日、午後 6 時 30 分の、懇親会を始めるとき、まだ、函館のホテルに到着していなかったから携帯電話を掛けましたら、まだ、「羊蹄山」の中で、雪と格闘しているとの事でした。

懇親会が終わった頃、再び携帯電話を掛けましたら『今、函館に向かって、車を運転している』との事でしたから、ちょっと安心しました。懇親会も終わってホテルへ帰っても、二人は到着していませんでした。

翌日、朝ご飯を食べる時、ホテルのフロントに聞きましたら『先程到着されました』って事で、ホッとしました。

あの時、二人が遭難していたら、私は、責任を取って、高山中央ロータリークラブを退会せんならんなあと考えていました。

私は、高山中央ロータリークラブの創立記念行事は『俺たちの、俺たちによる、俺たちの為の 20 周年』という事を言っていました。35 周年も、皆さんの思い出に残る、記念行事が、ええんではないかと思っています。

創立 30 周年（1991 年 5 月 20 日創立）記念事業について

中田 専太郎

30 周年記念事業は令和 2 年度、村瀬会長の時に行われました。

その前々年度である平成 29 年度の私は会長を務めさせていただきましたが、退会されました橋本修さんに 30 周年の実行委員長はおまえがやれよ、ということでしたので、この会長の時から 30 周年の記念事業に果たしてなにをやればいいのかを考え始めたように思います。

30 周年のセレモニーにつきましては、100 年、その半分の 50 年、そのまた半分の 25 周年の場合は、ある程度、招待客も含めて盛大に行うけれど、30 周年とかは、そんなに盛大にやらなくてもいいと思うよ、ま、精々例会にノンアルコールのシャンパンで乾杯でもすればいいんじゃないの。記念事業の方はなんか考えてみてもいいかも・・・。

ということで、そんなものかと合点しながら、でも記念事業の方は・・・と考え始めたことを思い出しました。

観光客の多い陣屋の辺りで、どこからともなく楽器を奏でる人間、コーラス隊が少しずつ現れ出して、最後には大合唱、大合奏になるフラッシュ・モブなんかどうだろう？勿論曲目はロータリーソング。あるいは、CD 出してるミュージシャンが、「めでた」に楽曲をつけさせてくれ、という提案があったので、それをやってみてはどうだろう？とか、メンテナンス付きのストリートピアノの寄贈と設置など、で最終的には、グローバル補助金を活用した国際支援事業をやろう、ということで、当ロータリークラブにも卓話で幾度かいらっしやった



ビルメロの会の紹介で、ミャンマーへ私と清水幸平さんと村瀬さん、それに剣田さんと岩本さんでミャンマーのヤンゴン中央ロータリークラブの例会を訪問し、メコン川の支流を舟で渡ったタニベ村小中学校その他を訪問させていただきました。

これは、「まずは現地の人々がなにを求めているのかを探ろう」という思いがあったからではあるのですが、後で考えますとここで致命的なミスをしていたというべきなのですが、支援事業にはメニューがある程度決まっています、現地の（ロータリークラブ以外ですが）要望である、「学校の建造」は大きくそのメニューから外れていたのです。

そんなわけで、残念ながらグローバル補助金事業は潰れてしまいました。本当に不徳の致すところだと反省しております。

ただし、私の次の会長である高原さんの時はよかったです。その後の坂之上会長の時からコロナパンデミックが中国や日本のみならず世界中で猛威をふるうこととなりました。

のみならずミャンマーでは、軍によるクーデターが勃発しましたし、コロナも蔓延し始めて、いずれにしろ支援事業どころではなくなってしまいました。

コロナ禍での RC は 30 周年記念事業年である村瀬会長時も続き、例会も中止になったり、蓋付きの弁当になったりというわけで、30 周年例会は本当にこじんまりと行いまして、例会では、剣田ガバナーから祝辞をいただき、伊藤会員、高橋会員からスピーチをいただきました。

また記念事業としましては、村瀬会長が勧められた地区補助金を活用した事業として、自主勉強用のタブレットを 11 台、高山市適応指導室「であい塾」に寄贈させていただきました。会員の皆様には、記念品として携帯電話の充電器をお渡しさせていただきました。

末尾に、35 周年記念事業の成功を祈念いたします。

<5月のお祝い>

<会員誕生日>

小出 貴博	S 4 6 年	5 月 1 2 日
中屋 出	S 4 8 年	5 月 1 3 日
高橋 厚生	S 4 9 年	5 月 2 0 日
井辺 義直	S 5 5 年	5 月 2 5 日
島 良明	S 2 4 年	5 月 2 6 日
道下 利一	S 4 1 年	5 月 2 8 日

<夫人誕生日>

水口 邦博	保代	5 月 1 7 日
直井 宏文	千日弥	5 月 2 1 日
堀口 裕之	潤子	5 月 3 0 日

<結婚記念日>

岩垣津 亘	S 5 3 年	5 月 8 日
中田 専太郎	S 5 8 年	5 月 2 1 日
高橋 厚生	H 1 5 年	5 月 2 4 日
松之木 映一	S 5 4 年	5 月 2 6 日

<ニコニコ BOX>

本日は創立周年記念について、島さん・中田専太郎さん卓話をよろしくお願ひ致します。

周 信夫

高原龍士君の顔を見て、父ちゃんは元気だと聞いたのでニコニコへ。

久々野 国良

GWの4日間ギャンブルづくめで過ごしました。ここまで来ると中毒だと思います。今井君とギャンブル依存症の診察に行こうかと話しています。今後の自分自身に頑張れという事でニコニコへ。

高原 龍士

本日の例会は、東京出張の為欠席となります。申し訳ありません。今年のGWは当クラブの諸先輩方の皆様のお陰で難局を乗り切りました。お詫びと感謝を込めて!!

村井 繁喜

本日早退します。

三枝 祥一

所用により早退しますのでニコニコへ。

高木 純

